■藤原清輔　　歌人。40過ぎて名声，平安歌学大成し，俊成に対抗。和歌の百科全書とも云うべき「袋草紙」を遺した。
ふじわらのきよすけ
義家延暦掣肘1104＝　　_歌界の指導者で六条家の祖とされる藤家顕季から人丸影を相伝された顕輔の次男に生まれる。
母は能登守高階能遠女。顕方は同母兄，顕昭・重家・季経は異母弟。

白河院政確立1107＝ 3歳：

永久の変・・1113＝ 9歳：

_父が異母弟の方を寵愛するなか，祖父藤家顕季から学んで育ち，

・・・・・・1122＝18歳：
・・・・・・1123＝19歳：この年，祖父藤家顕季が死去。

鳥羽院政始・1129＝25歳：

・・・・・・1131＝27歳：

西行出家・・1140＝36歳：

・・・・・・1144＝40歳：_父顕輔が，崇徳院の命をうけ，「詞花集」の撰集に着手，父より助力を請われたが，かねて父とは不和が続き，結局清輔の意見は採られなかったという。

四十代後半に至るまで従五位下の地位に留まったのも，父からの後援を得られなかったためと推測されている。しかし，_歌人としての名声は次第に高まり，
・・・・・・1149＝45歳：
頼長氏長者・1150＝46歳：*ようやく，従五位上。崇徳院主催の「久安百首」に参加。同じ頃，歌学書「奥義抄」を崇徳院に献上。

・・・・・・1153＝49歳：この頃，_「人丸勘文」を著し，類題和歌集「和歌一字抄」を編集。

頼長内覧停止1155＝51歳：*病中の父から人麿影と破子硯を授けられ，歌道師範家六条家を引き継ぐ。まもなく父は死去。
保元の乱・・1156＝52歳：従四位下。

後白河院政始1158＝54歳：_和歌の百科全書とも云うべき「袋草紙」を完成し，評判高く，
平治の乱・・1159＝55歳：*二条天皇に乞われて献上。天皇の信任は篤く，太皇太后宮大進の地位を得る。この頃から自邸で歌合を催したり，歌合の判者に招かれたりするようになり，歌壇の中心的存在となってゆく。

・・・・・・1162＝58歳：_中宮の貝合のため，内裏昇殿を許される。

_二条天皇からは，かねて私的に編纂していた歌集を召され，補正を進めていたが，
三十三間堂・1165＝61歳：_天皇が崩御したため，私撰集「続詞花和歌集」として完成させる。

清盛太政大臣1167＝63歳：

_やがて九条兼実の師範となり，歌道家としての勢威は，対立する俊成の御子左家を凌ぐようになるなか，

・・・・・・1176＝72歳：
鹿ケ谷事件・1177＝73歳：最終官位は正四位下。_没した。
著書にはほかに「和歌現在書目録」「和歌初学抄」などがある。自撰と推測される家集「清輔朝臣集」がある。千載集初出。勅撰入集96首。

「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，日本の古典名著，